



一般社団法人 亀岡青年会議所 2020年度スローガン

想いを紡ぎ未来を形に

~ Always be a challenger! ~

かめおか新世紀ビジョン2020

「世界に誇る環境先進都市(エコロジックミュージアムかめおか)」の創造



目次

～事業報告～ 創立40周年記念式典 (10月例会) 11月例会「カメチャレキッズ」	1
～事業報告～ 第10回理事会・第11回理事会 FT修了セミナー	2
～事業報告～ 京都ブロック協議会 「第48回ブロック大会舞鶴大会」 亀岡JCI感謝事業(創立30周年) 「タイムカプセル」	3
作麼生(そもさん) (田中 聖也副委員長の巻) 仙人掌	4

創立40周年記念式典(10月例会)

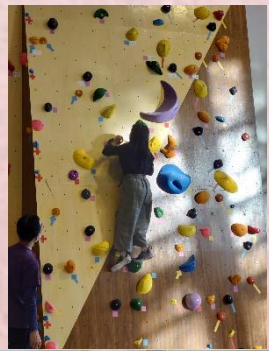
記念事業は次年度へ持越しとなりまして、多くのメンバーが初めての経験する記念式典となり、終始緊張感があるJCI式典となりました。

十月十一日(日)、創立四十周年記念式典(十月例会)が開催されました。本来は四月十一日に府内各地青年会議所メンバーや京都ブロック協議会、近畿地区協議会など沢山のご来賓をお招きし、記念事業と共に開催される予定でしたが、新型コロナウイルス感染症における緊急事態宣言の発令などにおいて事業は一旦中止を余儀なくされました。正副役員会議や理事会においても中止や次年度へ延期など意見が出ていましたが、楠理事長の想いのもと、万全の対策を行いこの度開催する事ができました。

残念ながら現役・特別会員だけの開催となりましたが、多くの先輩諸兄弟の皆様にご出席頂き現役メンバーは少し緊張した様子でした。楠理事長の想いをお話頂き、また、スポンサーJCIである京都JCIの足立理事長や近畿地区協議会の西田会長、京都ブロック協議会の榎田会長より動画にて心温まる挨拶を頂戴することができました。さらには亀岡青年会議所、畑初代理事長やのうみ会の中川会長からも挨拶と記念品を寄贈頂きました。最後には、大久保実行委員長より、ビジョン2030についてプレゼンをして頂き記念式典は幕を下ろしました。



11月例会「カメチャレキッズ」



十一月二十三日(月・祝日)に亀岡市交流会館にて十一月例会カメチャレキッズが開催されました。新型コロナウイルス感染症の第三波を迎えようとしている中でありますが、野外で青少年事業を行い、亀岡をみんなで楽しもう2020としてソーシャルディスタンスを保ち、実験教室・スポーツクライミング・森の展望台にて三つの課題に挑戦してもらいました。実験教室ではペットボトルでジャイロリングを作り、飛行機が飛ぶ原理を学び、点数を競いました。スポーツクライミングでは講師に指導をいただき、一人ひとりが高い壁に向かって挑戦を行い一生懸命目標の高さまで登り切りしました。森の展望台では息を切らし、しんどいと言いつつも、片道十五分程度の山を快調に登り、展望台では大声で誰が一番大きな声を出せるかとデシベルを測り、普段大声を出す機会がない参加者たちは、恥ずかしがりながらも楽しんでいく様子が見られました。本事業は青少年事業でありましたが、我々メンバーや参加者の親御さんに見守って頂きながら、また一緒に参加しながらのお互いに学ぶ機会の多い実りある事業となりましたので、これからも将来を担う子ども達の事業構築をしていければと考えています。

事業報告

第十回理事会

十月二日(金)

亀岡青年会議所会議室にて第十回理事会が開催されました。

今回は四つの報告事項と、六つの審議事項のうち八月例会(臨時総会)に関する件と十二月例会(卒業式)に関する件では総務広報戦略委員会の尾松委員長、十一月例会開催に関する件では青少年共育委員会の田村委員長がそれぞれ熱い答弁をし、無事承認を得られました。

この新型コロナウイルスの収束の見通しが立たない中、今年度も残す所二ヶ月をきりました。後まで気をひきしめて全員で事業を進めて参ります。

第十一回理事会

十一月六日、

亀岡青年会議所会議室にて第十回理事会が開催されました。

今回は四つの報告事項と、四つの審議事項があり、九月例会に関する件で人財創出委員会の鍵田委員長が答弁し無事承認を得られました。

九月例会が一般市民が参加する大規模な例会であったため改善点などの次年度に繋がる要望や意見が多数あがり、この結果を活かして次年度の亀岡青年会議所がより良い活動結果を残せるよう丸と事業構築をしていきます。

F T 修了セミナー

十月十七日(土)にガレリアかめおか研修室とサンガスタジアム by KYOCERA を使い、F T 修了セミナーが行われました。F T メンバーの緊張感が伝わる中、開会を迎えセレモニー、理事長挨拶、そしてF T 事業担当の未来創造会議の大久保議長の趣旨説明が行われました。

その後、F T メンバーの荒木一博君、近藤洋介君の自己紹介があり、その後亀岡市民憲章の暗唱、そしてくじ引きによるシークレットセレモニーが行われました。F T メンバーは暗唱に詰まりながらも、日々の練習の成果を発揮し無事に現役メンバーの後押しの中発表する事ができました。

休憩を挟んでスタジアムに移動し、施設管理者の方から館内の説明があり、その後館内の見学をさせて頂きました。これから亀岡市のランドマークとなる施設を見学させて頂いた、我々亀岡青年会議所としても亀岡市活性化に尽力できるように事業を展開していければと考えさせて頂いた、いただきます。

その後ガレリアかめおか研修室に戻り、F T メンバーの三分間スピーチ、その後JCI セミナーがあり、トレーナーとして前橋青年会議所の加藤美佳さんのJCI インパクト研修が行われ、これからの亀岡について話し合いました。最後にF T メンバーの素晴らしい五分間スピーチが行われました。その後、楠理事長から修了証が贈られました。

楠理事長と荒木一博君



楠理事長と近藤洋介君



京都ブロック協議会「第48回ブロック大会舞鶴大会」

十月二十三日(金)に、フォーラム十五時〜十七時、そして式典十八時〜二十時で現地とWEBのハイブリットにて参加者二一八名で開催されました。フォーラムは初の試みであるCusterを使用し開催されました。

基調講演ではさくらインターネット田中社長にお話をいただき、高専時代に起業し、幾度の危機や次代の変化を乗り越え、新しい挑戦を続けている田中社長の講演の中で、できることをやるのではなく、寛容性と多様性をもって、やりたいことを進めることに変えることで、既存のビジネスプランを進化させることができるとお話いただきました。

途中音声途切れるというトラブルがありました。また、無事に終わることができました。

また、ビジネスコンテストを通して環境の変化に合わせて自分を進化させることができると感じ、自らの状況におきかえて、自分も新たなことに挑戦したいと感じることができました。

式典はZoomを使用し、全編オンライン動画と中継を織り交ぜ開催されました。

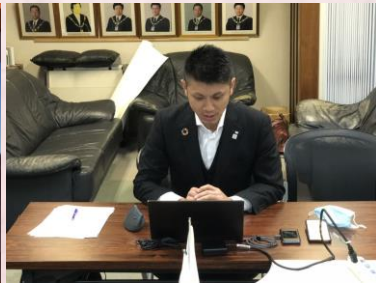
一年間の軌跡では京都ブロック協議会の一年間の活動を追い、委員長として出向している関本副理事長も出演し素晴らしい演技を披露されました。

当日はブロック大会運営委員会に副委員長として出向している櫻井副理事長と鍵田委員長が大変忙しく動いていました。

櫻井康久副理事長コメント
「このような社会情勢の中で開催できたことは、これからの活動の一つの方向性を示すことができましたのではないかと考えています。皆様ご参加いただきありがとうございます。」



JCM-グループメント創造委員会
委員長 関本 高志



「タイムカプセル」

九月二十三日(水) 亀岡市蔭田野町の児童養護施設「青葉学園」さんで十年前に埋めた「タイムカプセル」を掘り起こしました。

タイムカプセルは二〇一〇年九月二十三日に亀岡JCの三十周年感謝事業の一つで埋められたものになります。埋めた日は雨が降っていましたが、掘り起こした日は快晴に恵まれ、楠理事長や浅田専務理事や青葉学園江口理事長は大汗を掻きながらワクワクドキドキしながら掘り起こしました。掘り起こしたカプセルは嚴重に梱包されており、水が入った形跡もなく原形をとどめたまま、当時のメンバーのメッセージや青葉学園の子ども達約五十人が十年後の自分に宛てたメッセージカードが入っており、懐かしい名前に歓喜したり、職員さん達は巢立っていった子ども達に思いをさせておられました。

当時のことを知るメンバーや青葉学園職員さんも少なく、立ち会っていただきました。亀岡JC第三十代理事長西脇隆雄先輩から当時のお話を聞かせていただきました。カードは巢立っていった子ども達の元へ郵送され、また青葉学園に十年前から在籍している生徒が一人おられましたので、江口理事長から直接メッセージカードを渡していただき、「ここで育ったことを思い出し、これからは誇りを持って人生を歩んでほしい」と話しておられました。



作 麼 生 ~ふあみりいーダイアリー~

今号、インタビューをさせていただいたのは入会三年目の田中聖也君です。人と人との繋がりを大切にしたい会社経営を行い、会社名の由来である元気の「源」を掲げ、向上心をもってJC活動をされ、次世代を担うメンバーです。

○はじめに家族や会社のことについてお聞きできますか。

田中 四人家族（自分・妻・長男六歳・次男四歳）で、奥さんに支えられ、仲良く忙しく充実した生活を送っています。

会社は源グループとして、源建設（建設事業）、MR、Line（配送事業）、エムズプライト（エステ事業）の三つの事業を経営しています。私一人では到底大変な仕事ですので、建設事業は松岡さん、配送事業は野島さん、エステ事業は堤さんを中心に日々努力を積み重ねています。

○では、JC活動について。組織改革して欲しいところや、JCでやりたいこと等を教えて下さい。

田中 家族・仕事・JCと自分で調整しないと両立が出来ないと感じています。学びの場だと考えているので、与えられたことはやりまわすし、無理なことは無理と言いますので、メンバーがやりがいの感じられる、面白いJCにしたいです。だからこそ、悪口を言い出すなどの風潮は改善して欲しいです。

○社長がJCをされてから成長を感じることや、JC評をお聞かせください。

従業員 皆さんと一緒に交流や話をする事で、一般常識が付いて（笑）、他人の意見を聞くようになり、自分の意見を押し通すのではなく、意見を飲み込んで話をされるようになりました。JCは社長の集まりで、色々な活動をされて、硬いイメージもありますが、フランクで話しやすい方もおられるんだなと印象が変わったところもあります。

○従業員さんから見ると社長の優れているところはありますか。

従業員 何やかんやと従業員のことを家族のように扱ってくれる優しさがあり、仕事に関して信頼して任せてくれるので、やりがいを感ぜられます。経営者として素晴らしいと思いますし、昔から知っている大人になったなと思っています。それに、奥さんのお陰で安心して好き勝手されています（汗）

○奥様から見て社長は如何ですか。

奥様 行動力があり、スイッチの切り替えが早く、従業員第一を考えているのがよく伝わってきます。心配性の一面もあります。

○田中君から従業員さんに一言お願いします。

田中 一人ひとりが力を発揮してくれて、支えてくれているので会社を経営できて、JC活動ができてるので感謝しています。

○従業員さんから社長に一言お願いします。

松岡 源ビルを建てましょう。

野島 もっともったい会社になるように一緒に頑張ってください。

堤 ずっとついていきます。

○奥様から社長に一言お願いします。

奥様 従業員さんを大切に、そのままの聖也でいて下さい！

奥様が人と人との繋がりを大切に考えられた看板↓



堤さん 野島さん 田中君 松岡さん



仙人掌

新型コロナウイルス感染症に罹患された方々に謹んでお見舞い申し上げます。一日も早いご快復を祈念致します。また、一日も早い収束を心よりお祈り申し上げます。亀岡青年会議所は創立四十周年を迎えたにもかかわらず、本年度は新型コロナウイルスに奔走した年になったのではないのでしょうか。

私がコロナ禍で一番大切なことと感じたのは、出来ないかもではなく出来るようになるという思考や行動ではないでしょうか。コロナだからという理由だけで出来ないという思考は、出来ない理由探しのような気がしてしまいます。環境や状況のせいにはせず、どうやったら実現できるか、どのような準備が必要かを考えて行動できる人間でありたい。

新型コロナウイルスの感染者の増加傾向が鮮明となり、第三波の到来を懸念する声が強まっています。そのような状況だからこそ、青年会議所活動での経験を重ねたり、ダイアログが率先垂範し活躍していただくことを心より望んでおります。

自戒の念を込めて寄稿いたします。